

ヒンドゥー教寺院

インド（約 11 億人）は中国に次いで世界で 2 番目に人口の多い国だ。中国は華僑、華人として世界各国に移住しているが、インドの国外移住はシンガポールが最も多く住んでいる国の一つだ。その割合は 9.2%。これらの多くの人々は 1819 年以降に移住してきている。移住初期は季節労働者や、兵士、受刑者などが含まれていた。インド人の多くは南インドの出身者で、そのうち 58% はタミル族を祖先としている。

日本では私が住む神戸が明治時代からインド人移民コミュニティが存在し、既に 3 世、4 世の時代へ突入している。私の親しい友人も数家族いるが、いずれも大阪で主に繊維を扱う貿易商を営み成功している。これらの殆どが永住者中心で、なかには日本国籍を保持している人も多く出てきている。

シンガポール最古といわれるヒンドゥー教寺院を見学した。スリ・マリアマン寺院がそれで、入口にはこの寺院の象徴であるゴプラムと呼ばれる塔門を見て驚いた。極彩色に彩られたヒンドゥーの神々や、戦士、動物などがリアリティーな表情で彫刻され、それが高く積み重ねられた塔になっている。すごい迫力を感じた。



この寺院は 19 世紀にインド人貿易商によって建てられたもので、現在の建物は 20 世紀中頃に建て替えられたもの。

ヒンドゥー教徒の数はインド国内で 8.3 億人、その他の国を合わせると約 9 億とされ、キリスト教、イスラム教に続いて世界で 3 番目の宗教人口を持つに至っている。 撮影 2011 年夏